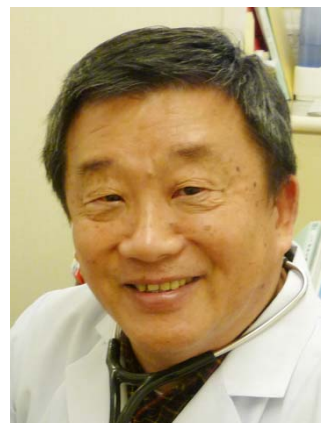


日本認知症予防学会の役割と進む道



日本認知症予防学会理事
医療法人ふらて会・社会福祉法人ふらて福祉会理事長 西野憲史

急激な高齢化が叫ばれています。これに併せて、少子化、人口減少、介護力低下、労働人口の減少、そして世界的な経済の不活性化は高齢者の社会保障の充実に大きな障害であります。さらに認知症高齢者の急激な増加はその確実な改善がはかれないことから、その将来をますます深刻化しています。

このような状態に対し現時点での最も効果的な方法は、その予防以外にありません。しかしながら、予防の実現には研究職や現場で働く医療や福祉職、そしてその仕組み作り、マスコミなどの一体的な理解と協力が欠かせません。われわれの学会の進むべき道は、認知症予防のための可能性の高い方法を考え、探し、社会に紹介し、そのための仕組み作りや人材を育成することにあります。限られた社会資源や医療資源を有効に活用して、その成果を最大のものにしたいと考えています。

私が以前より提唱している認知症の3段階予防法は私が大学時代からの研究課題である動脈硬化症の発生、進展の抑制の観点から成り立っています。一次予防は生活習慣病の予防と適切な管理、二次予防はできるだけ早い段階からの予防活動の開始、特に脳血流量を増加させるアクティビティと散歩などの有酸素運動そしてコミュニケーション。さらに、個別ケアとアクティビティを中心に行う三次予防。いずれも医療職や介護・福祉職だけではなく全ての段階に対応出来る仲間が必要です。特に二次予防は認知症の成り立ちや対応を正確に理解したチームが必要です。

この学会の活動は限りなく広がって行きます。どうか皆さんの熱い気持ちを集めて、一人でも多くの方々が参集し、地域に働きかけ、高齢を迎えた方々の人生の後半を支え、豊かにし、一人ひとりの尊厳を守り、限りある人生を守り続ける力になって行こうではありませんか。